

# 「天空杯少年少女空手道交流錬成大会競技規程」

## (形競技)

1. 赤、青のトーナメント、フラッグ方式。各部門、各コートで決勝戦まで行う。
2. 幼児、小・中学生有級の部の予選はすべて基本形、平安、ピンアン、撃砕の中から選んで演武し、同じ形を1回戦から決勝まで何度演武してもよい。同部門は決勝のみ指定形、自由形の使用可。
3. 小、中学生有段（初段補含む）の部はベスト8まで基本形、平安、ピンアン、撃砕から選出、連続使用可。ベスト4～決勝は第1・2指定形、自由形の使用可、またこれまで使用していない基本形、平安、ピンアン、撃砕からの選出可。なお、準決勝（ベスト4）で使用した形を決勝で使用は可。  
※3位決定戦はベスト8までに使用した形を使用してもよい。
4. 団体戦は各道場から3チームエントリー可とする。チームは3人制。チーム編成は小・中学生、男女、有級・有段混合でチーム編成してもよい。
5. 団体戦は幼児、小・中学生有級の部と同様、予選は基本形、平安、ピンアン、撃砕の中から選んで演武し、同じ形で1回戦から準決勝まで演武してもよい。ただし、決勝は予選で使用した形を演武してはならない。決勝は指定形または自由形の使用可。
6. 選手は礼節を重んじ、入退場の際は審判、対戦相手にきちんと礼をすること。

## (組手競技)

1. 競技方式は赤、青のトーナメント方式。各部門、各コートで決勝戦まで行う。
2. 組手競技の勝敗は幼児の部のみ4ポイント先取、小、中学生の部は6ポイント先取とする。
3. ポイントの参考例は、突き技が上・中段とも1ポイント。蹴り技は中段が2ポイント、上段蹴りが3ポイント。相手を足払い等で倒した技からの突き技は3ポイント。
4. 個人戦は各クラス決勝戦まで行う。
5. 競技時間は幼児の部が予選～決勝戦まで1分のランニングタイムとする。  
小中学生の部は予選～決勝まで1分のフルタイムで行う。
6. 各安全防具は全空連認定のノンコンタクト用を採用。それ以外は認めない。
7. 本大会は10カウントルールは採用しない。よって接触によるダウンの場合は敏速に対応する。
8. 本大会は倒れた、もしくは倒した相手に対する「蹴り」による攻撃は全て危険行為とし、蹴り技が決まっても反則（カテゴリー2、接触した場合はカテゴリー1）とする。（※突きはポイントとみなす）
9. カテゴリー1、2については審判員は厳しく対処し、事故の未然防止に心がける。
10. 団体戦は各道場から3チームまでエントリー可とする。
  11. 団体戦は3人制（先鋒・中堅・大将）。先鋒が小学3・4年生、中堅が同5・6年生、大将が中学生で編成すること。なお、大将（中学生）は学年をとわない。小中学生とも男女混合を認めるが、全て男子、女子で編成してもよい。（例：先鋒、小学3・4年男子、中堅、小学5・6年女子、大将、中学男子（女子）など）
  12. 団体戦の競技規定は個人競技規定に準ずる。競技時間は全て1分フルタイムとする。
  13. 団体戦は「引き分け」があり団体戦終了後、勝敗が同点であれば得点差で勝敗を決める。それでも勝敗がつかない場合は代表戦を行う。その際、試合時間は1分フルタイム。代表戦でも勝敗がつかない場合は代表戦の判定で勝敗を決する。
  14. 選手は礼節を重んじ、入退場の際は、対戦相手にきちんと礼をすること。

※ 全競技、(公財)全日本空手道連盟審判規定に準じ、一部本大会競技規定を採用します。

ミサンガなど装飾品をつけての試合参加は不可。カラーTシャツ着用も不可。ただし女子は白・無地は可とする。男子のTシャツ着用は白、無地も不可。ただし、なんらかの理由がある場合（身体的理由など）は、事前に審判長まで申告し許可を得た場合は着用を認める。なお、競技判定については審判長、コート長、審判員に一任し判定についての抗議などは一切認めません。